

資源環境経済学特別演習 I 議事録
2016年度 第4回

報告題名 (title) : 天候インデックス保険の加入を阻害する要因 : 低所得者の金融商品の嗜好性			
報告者 (name)	尾崎 寛幸	日時	7月7日 午後3時~
所属分野 (labo)	国際開発学	場所	第3講義室
座長	吉田 朋記	議事録担当者	木暮 悠太
出席者			
木谷、井元、小山田、米澤、冬木、伊藤、石井、水木、西田、Debby、Indri、佐藤、石塚、尾崎、ソリゴガ、吉田、趙、李、木暮、辻、オルガマル、ゲゲンタナ			
報告要旨 (Abstract)			
<p>低所得者向けの保険であるマイクロインシュランスを途上国に導入する関心が近年高まっている。特に農家向けの保険では、旱魃などの自然災害のリスクを回避できるようになることが期待されており、天候リスクを回避するための作物保険としては、被害を受けた作物量で保険が支払われる作物インデックス保険と、地域の雨量などの天候データをもとに保険支払いが行われる天候インデックス保険が存在する。従来の作物インデックス保険が抱えていた問題である、モラルハザード、取引費用の問題を解決した天候インデックス保険はその理論的な拡大予測に反して、保険加入率が伸び悩んでいることが近年のレポートでも報告されている。(Cole, 2012)</p> <p>本研究においては、作物保険への保険料補助金の大部分を政府が負担し、作物保険の市場が大きいインドにおいて、貧困農家が天候インデックス保険に加入することを阻害する要因を調べる。</p> <p>今回の報告においては、作物保険の概要、天候インデックス保険が作られた背景、先行研究、研究仮説、調査内容について報告する。</p>			

質疑・応答(Q & A)

①西田博士 3年生

Q1:調査地対象地の主力作物は？

A1:3つの県によって異なる。麦が2つの県で主力であり、そこを調査しようとしている。

Q2:調査する対象は保険に入っている人たち？

A2:それは難しそう。保険について説明したうえで入っていない人にも聞く。

Q3:調査では農家に保険商品の選択肢を提示するのか、決められた保険を提示するのか？

A3:農民は政府が大部分を補助する保険商品を選ぶ可能性が高いため、後者を考えている。

②水木助教

Q1:天候インデックス保険は様々な天候被害とされているが、こういった保険内容になっているのか？

A1:1つの商品で複数の天候被害に対応している。

Q2:観測地点はどれくらいの間隔で設置されているのか？

A2:正確な数字はわからない。先行研究を見ると観測地点を増やしていく余地はありそう。

Q3 調査の質問項目について、農家のリスク志向性は聞かないのか？

A3:それも聞きたい。リスク志向性をどう評価するかが難しそう。

Q4:選択実験を意識しているのか？

A4:商品をいくつか提示して2段2選択式を考えている。

③石井准教授

Q1:インデックス保険の加入率は調査地ではどうなっている？低所得者のリスクヘッジは今までもなされていたのではないのか。現時点で加入している人たちがなぜ加入しているかを調査したほうが傾向がつかめるのではないのか。

A1:加入者数はわかっているが割合は不明。低所得者のリスクヘッジに関してはそもそも成り立っていないので保険が生まれた。多雨で玉ねぎ農家が自殺した事例が社会問題になった。

④伊藤教授

Q1:データをとる意味について、なぜこの調査をやらないといけないのか、他のアプローチではだめなのかという検討はしたのか。データをどう集めるのか・どれくらいの信頼性があるのかなど超えないといけないハードルが多い。それらを本当に超えないといけないのか=この調査をやらないといけないのかを考える必要がある。例えば10軒の農家にいって直接じっくりと話を聞くという選択肢もあるのではないのか。

A1:現地調査を行いたい。自分で得た所得データで論文を書きたい。